

2021.11.27

企業・NPO・大学
パートナーシップミーティング2021

災害時における地域連携

横須賀市社会福祉協議会
よこすかボランティアセンター
横須賀市災害ボランティアネットワーク事務局
鈴木孝芳

災害ボランティア

阪神淡路大震災

1995年1月17日

(26年前)

ボランティア元年

1997年6月7日 横須賀(災害)ボランティアネットワーク発足

地震後、YMCA、青年会議所と社協で、災害時のボランティアの組織化について検討が始まった

1997年2月に日本海重油流出事故があり、ボラバスを運行したことがきっかけとなり、横須賀(災害)ボランティアネットワークが発足した

ボラバス運行には多くの市民・企業の協力があった

横須賀(災害)ボランティアネットワークの活動

災害時ボランティアセンターの運営

災害ボランティアコーディネーター養成講座

災害時ボランティアセンター設置運営訓練

体育館で避難生活を体験

県域ネットワークとの連携

被災地支援

2011年3月11日 東日本大震災

ボランティアバスの運行

2011年から4年間で
18便、742人が参加しました

ここで、社協、災害ボランティアネットワーク、
ボランティアが災害ボランティアについて多く
を学んだ

大規模地震災害

警察、救急隊や自衛隊など

人命救助、ライフラインの確保

社会福祉協議会（災害ボランティアネットワーク）

災害時ボランティアセンターの設置・運営

一般ボランティア

がれきの撤去など

専門ボランティア

家屋の診断、健康指導

最近の災害の傾向

台風などの風水害

災害時ボランティアセンター設置未済の局地的災害

災害対策本部が立ち上がるが、災害時ボランティアセンター設置要請に至らない規模の災害

平時のボランティアセンターが
通常の活動の延長として需給調整できるか
災害ボランティアの事前登録を検討中

被災者が受援者として発信する情報を支援者に的確に届ける

聞き取る仕組み

平時に当事者を中心にした災害対応チームを作る

要配慮者への支援

高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、外国人に加え、
子供やペット同居者など

地元企業のチカラ

学生のチカラ

日ごろから顔の見える関係
災害時に連絡が取り合える関係

